安土城関連年表

天正4年 （1576） 丹羽長秀に命じ、安土築城をはじめる
天正5年 （1577） 安土城下町を楽市楽座とする
天正7年 （1579） 信長、安土城の天主にうつる
天正9年 （1581） 宣教師フロイスらが安土に来城
天正10年（1582） 正月・・・年賀に多くの見物人が集まる
　　六月・・・本能寺の変
天正13年（1585） 安土城廃城
大正15年（1926） 安土城跡、史蹟に指定
昭和27年（1952） 安土城跡、特別史跡に指定
平成元年（1989） 20年計画の調査整備事業はじまる
平成22年（2010） 「女性のための近江戦国山城マップ」製作

西の湖と常楽寺港

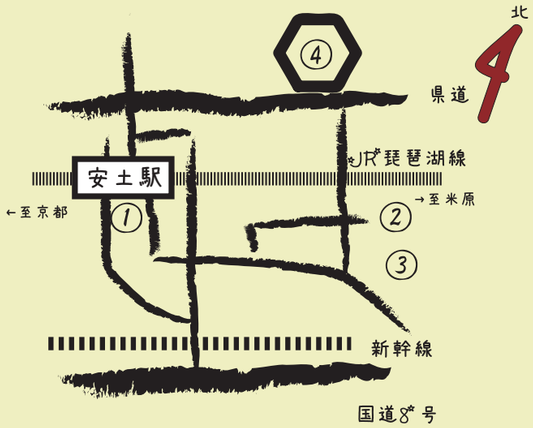
常楽寺港は安土城の西、約1kmほどの所にあります。室町時代には観音寺城の外港として栄え、この港を押さえるために港のすぐ近くに常楽寺城がありました。また、信長が安土城を築くまで度々訪れ、明智光秀も坂本城から佐和山に行く途中立ち寄ったとされます。西の湖は、安土山と八幡山との間に広がる内湖で、現存する琵琶湖最大の内湖です。絵図からもわかるように、かつて安土山の周囲は、内湖が取り囲み、水城のような景観を持っていましたが、干拓によって内湖は失われ、湖にそびえ立つ安土城のイメージを思い浮かべることは難しくなっています。

❀亜❀

＜要チェックポイント！＞
永楽銭のマンホールや古い船板を使った建物

お勧めルート

安土城は城跡なので①②③に寄り、事前に安土城や信長のことを学んでから登ると見ごたえがうーんと増すはず！
メインの安土城跡に行く前に是非立ち寄ってみよう❀❀



① **安土城郭資料館**
安土城天主全体の1/20サイズの模型あり♪
② **安土城考古博物館**
金箔瓦・信長の肖像画・近江の歴史に関する展示など
その他イベントも多いので事前にチェックして♪
③ **信長の館**
安土城天主・原寸大の再現展示が迫力♪
④ **安土城跡**
いざ！信長と同じ空間を体験してみよう♪

アクセス
最寄駅：ＪＲ東海道本線安土駅　徒歩 30 分・レンタサイクル 10 分
車：名神高速道路「竜王Ｉ．Ｃ」または「八日市Ｉ．Ｃ」から 20 分

金箔瓦～信長のはじめて尽くし～

金といえば豊臣秀吉？いいえ、違います。寺院にのみ使われていた瓦を城に使い瓦や鯱瓦に金箔をはったのは織田信長が初めてなのです。秀吉は金箔を瓦の凸面にはって造りの粗さをごまかしたのに対し、信長は瓦自体を緻密に作らせ、金箔を凹面に貼っています。宣教師達に「薔薇に金を塗ったようだ」と称賛されました。そして金箔瓦の使用を親族のみに許可することで、魅せるだけでなく権力のシンボルとして利用したのはアイデアマン信長の真骨頂です。

❀紀❀

石仏

安土城の大手道の階段・石垣に使用されてる数（見てわかる範囲）は石仏や五輪塔・石塔が20か所以上。逆さになっていたり、裏返しになっているのでいつの間にか、踏んでいるかも・・・！さて、全部探し出せるかな～？石仏などの石造物が、石垣や階段等に転用されているのは、実は不思議なことではありません。安土城築城以前の他の城でも、階段や地域の橋や田んぼの堰などに転用されていたのです。
「信長は神も仏もない」などと言われていましたが、当時は普通に行われていたんですね。

❀玲❀

『伝○○邸』とは、、、

現在『伝○○邸』と言われている場所・・・武将の屋敷跡かと想像が膨らみますよね。でも実は、本当に屋敷があったという確かな証拠は見つかっていないのです。古地図には羽柴秀吉とか家康公とか描かれてあるのに！」と思われるかもしれませんが、これは安土城炎上から105年後の貞享4年（1687 年）に、地域の伝承をもとに描かれたもの。果たして正しい位置を指しているのかどうか…。特に家康については、信長の家臣ではなかったため、城内に屋敷の存在さえなかったと考えるのが通説となっています。

❀竹❀

下街道

安土城の南側に東西にのびる現在の幹線道路、県道2号線（大津能登川長浜線）は、江戸時代以降は朝鮮通信使が通る道として朝鮮人街道と呼ばれていましたが、元々は信長が造った道でした。東山道（後の中仙道）を「上街道」と呼んだのに対し、この道は「下街道」と呼ばれ、大変美しく整備されていたそうです。利用目的は、時の正親町天皇の行幸のため、信長が京へ上るため、城下に人々を呼び込み町を活性化させるため、と諸説あります。

❀竹❀